新宮山彦ぐるーぷ第２１２７回

行仙宿にストーブ他荷揚げ、地蔵岳の捲き道整備と四阿宿に靡看板設置

◇実施日：　２０２１年５月３日（月）～４日（火）晴

◇参加者：　沖崎吉信、児島道夫、生熊敏男、濱野兼吉、梶野照雄、高階美根子、大門健一、高橋桂太、乾克己、湯川一郎、山田武

（３日、宿泊１１名）

橋本梓、大江加予子・徳子、畑林清子、山本恭正

山川治雄、岩本信行（３日、日帰り７名）

山川治雄、岩本信行（４日、日帰り２名）

延２０名

昨年の年初から始まった新型コロナウイルス感染症は、一年半を経過した今でも衰えるどころか勢力を増している。

昨年、今年とも、小屋の予約問合せは非常に少なく、会員皆さんの健康配慮の面からも小屋番は置かず、期間中に２～３回日帰りで出向くと決めていたが、児嶋さんから「乾さんと行仙宿泊で地蔵岳のイワカガミの写真を撮りに行き、先日気になったシャックルが有るので交換する。数人いればストーブも荷揚げできる」との話があった。以前より山川さんも地蔵岳捲き道の提案もあったので、全て含めて行事を計画した。

ストーブの荷揚げと地蔵岳捲き道整備をメインとして皆さんに呼びかけたところ、多数の参加申し込みを頂いた。

ストーブ荷揚げ用の長い棒や食材調達などの準備を整え当日を迎えた。

５月３日

ストーブを交代で運ぶ

登山口で

午前９時、登山口に全員集合、今日はお天気もよく、ストーブの荷揚げと毛布干しがメイン作業のため、その段取り、注意点などの説明を行った。モノレールは２往復ですべての荷物を運び上げ、終点から各自背負子で運び上げる。ストーブは沖崎、梶野が一番バッターとして運び、その後順次交代することにした。５０kg近い重さなので、かなりの時間がかかると思っていたが、実際に運んでみると、一時間ほどで運べるように思えた。

二人で第２ベンチ迄運び、２番バッターに託すべく休憩していると、小屋に先行して戻ってきたメンバーから、小屋内で発熱し毛布にくるまっている登山者がいる。同行者は発熱者を我々に託し、玉

置山方面に行きたい、と言っている。すぐ小屋に行って対応してほしい。　との情報がもたらされた。

毛布干し

発熱した登山者を連れ降ろす

ストーブを仲間に託し、急いで登り小屋に着くと、発熱者はすでに毛布から出て登山服姿で座っていた。熱もかなり下がっていて、歩いて下山できる状態だった。すぐに下北山村役場に電話連絡して対応を依頼。役場では診療所に連絡し、先生の指示を仰ぐなどの適正な対応をして頂いた。

高橋君が車で役場まで送り届ける、と手をあげてくれ、梶野君がモノレールで登山口まで同行してくれた。

それにしても発熱している同行者を残して、一人で先に進む事は常識ある人間とは思えない。私が小屋に着いた時にはもう出発した後で、姿は見えなかった。どんな人物か、顔も見ることは無かったが、非常識の極みである。

そうこうしているうちにストーブが到着し、予想よりも早く荷揚げすることが出来た。皆さんのご協力のおかげである。無事に荷揚げが出来てヤレヤレだ。

水場に降りる

お昼までに時間もあり、毛布干しに取り掛かる。人数が多いので、小屋周りにロープを張るのも屋根にあげるのも早い。３０～４０分ですべての毛布と枕を干し終えて、管理棟前で昼食とした。

食事中、高橋君が戻ってきた。聞くと、役場日直の坂本君は診療所に連絡し、不在だった医師からの指示を受けて適正、親切に対応してくれ、気分が良かった。との話があり、小屋常備用として消毒液を頂いてきてくれた。

午後は毛布回収、水場点検と水採取、今晩の準備に分かれて作業する。作業が一段落した午後３時前に本日の日帰り組が下山した。ご苦労様でした。

泊組は４時少し前から、畑林君差し入れの「マグロのカマ」を焼き始めた。十分に火が通るまで時間がかかるので、皆さんビール片

お堂で勤行

３日の参加者

手に焼き具合をチェック。ちょっと味見、と口にすると「ウマい、ウマい」に連れられ、コンロから降ろさずに全て食してしまった。少しではあるが、小屋の宿泊者にもお裾分けした。宴会の一品が無くなってしまったが、皆が喜んで口にしてくれたのは何よりだった。

マグロのカマを焼く

コシアブラの天ぷら

行仙宿に前泊し、今日、明日の作業に参加していただいた湯川君と同じ職場の山田さんのお話しでは、昨日の宿泊者は２０名を数えた。今日の宿泊者もすでに１０名を越えている。昨年の閑散とした状況とは少し変化がある。

予定の時間となり、管理棟で宴会スタート、泊組１０名と山田さん、乾さんの山友、上田、藤森氏も加わり、１３名で始まった。用意した酒類、食材に乾さん持参のコシアブラ、ハリギリ、アメノウオ、畑林君差し入れのマグロのセセリや大江さんのオデンなどでテーブルは置く場所がないほど一杯になった。乾さんと、今日唯一の女性参加者、高階美根子さんが天ぷらを担当された。文字通り山海の珍味で、日頃なかなか口にできない品々で大いに盛り上がった。

午後８時頃にお開きとして、管理棟と小屋に分かれて就寝。小屋には１２名の宿泊者があった。

５月４日

午前４時頃、まだ暗いうちに小屋の宿泊者が起き出し食事を始める。照明を点けて便宜を図った。５時前に我々も起床し、朝食の準備をする。生熊さん差し入れのシイラの干物などで豪華な朝食だ。地蔵岳に向かう前に、準備してきた靡看板や標識を各々に割り振り、小屋・管理棟の片付けや整理を行った。

朝食を済ませて

出発準備

出発

午前７時半には本日も日帰りで参加してくださった山川、岩本の両名が到着し、７時３０分、地蔵岳に向けて出発した。生熊さんが

一人残り、小屋や周辺の整備作業をしてくださる。

ロープを手直し

２６番鉄塔着

標識を設置

久々の笠捨山捲き道である。児嶋さんは数カ所でロープの手直し、増設をしながら進む。数年前の大雨で何カ所もが崩れ、厳しい道となった。特に橋を渡るとき、谷や峪状のガレ場は要注意だ。

９時半過ぎに２６番鉄塔広場に着き、地蔵岳山頂班（児嶋、乾、濱野、高階）の４人、捲き道経由で東屋岳の靡看板設置班（沖崎、湯川、山田、岩本）の４人、捲き道整備班（梶野、山川、高橋、大門）の４人と、３班に分かれて進む。

捲き道を進み、左下に２７番鉄塔が見えるところまでは普通の山道だったが、その後は「こんなに悪かったか？」と思うほどの荒れかたで、かなり危険なところも多い。倒木も３～４ヶ所あった。整備を後続班に任せて地蔵岳水場脇の奥駈道に登る分岐までやってきた。地蔵岳参道の石柱は倒れていて、玉岡さんが立てた標識も朽ちている。水場は少量ながら確保できるが、２～３日前にかなりの降雨量があってこの量なので、通常は当てにできないだろう。

杉林の中を直登し、１０分ほどで奥駈道に到達、そのまま東屋岳に急いだ。

地蔵岳水場

四阿宿の靡看板を設置

倒れた石柱

東屋岳に向かう

白花のイワカガミ

途中で、昨夜行仙宿に同宿の大坪君（名古屋市）に出会う。早朝に行仙宿を出て、香精山まで足を延ばした帰りで、今日、前鬼まで送

る約束をしていたので、ここから行仙宿まで行動を共にしてもらった。

東屋岳に到着後、看板設置を始める。今までに３０本以上立ててきたので、要領もよくなってきて、ほんの数分で作業完了。杭も深く打ち込むことが出来た。

待ち合わせ場所の２６番鉄塔広場に戻る途中、地蔵岳の手前で山頂班と合流した。昼食も済ませ、花も満喫できたようだ。

ナンカイイワカガミは通常ピンクの花を咲かせるが、地蔵岳付近では白色の花が見られ、静岡以南の太平洋の高山にしか見られないという希少種である。アケボノツツジも多く見られたようだ。

クサリを留めているシャックルも２ヶ所で交換した。話ながら少し休憩して出発。地蔵岳西側のピークから水場に降りるところには短いながらトラロープが張られて、その下方はピンクのテープが随所に付けられて、スムーズに下ることが出来た。

準備した２枚の標識も設置され、石柱も真っすぐに立て直されていた。崩れだトラバースにトラロープが張られて、倒木も全部処理されていた。捲き道整備について、我々が出来ることは全部行った。

２０分で鉄塔広場に着く。クサリ場を経由した岩本、山田の２名より３分ほど早く到着した。捲き道整備班は３０分余り待ったようだ。

全員が揃い行仙宿に戻る。途中、葛川辻水場径のロープの状態を乾、梶野の２名が確認に降りる。ロープはそれほど食い込んでおらず、数年後にロープ全体を取替えるのが良い、と報告があった。

２４番鉄塔ベンチで休憩して午後２時半過ぎに行仙宿到着、小屋には今夜宿泊の登山者が６名到着していた。

帰り支度をし、管理棟、倉庫、お堂の戸締りを確認して下山した。

葛川辻に到着

２４番鉄塔ベンチ

葛川辻の水場径確認

行仙宿に戻る

穴が補修された補給路

モノレール終点から第２ベンチ迄の間で、崩れて穴が開いていた道は、生熊さんが一人で補修され、きれいに、安全になっていた。

地蔵岳捲き道の整備は出来たが、山頂クサリ場経由の方が安全だ、

という声も多く、誰にでも勧めるということはできない。

（記；沖崎）

【地蔵岳捲き道整備】

地蔵岳越えの４名と別れて、捲き道の整備に向かう。

トラロープを張る

標識を設置

奥駈道に合流

２６番鉄塔から２７番鉄塔に向かう電源開発の巡視路に入り、２０分弱で左下に２７番鉄塔が見える。巡視路は鉄塔に降りているが、捲き道はここから上方に向かっている。直径１０cmほどの杉の倒木を山川さんが切除、古い鉄板の橋が落ちたところもあり、捲き道の状態はあまり良くない。崩れかけて不安定な個所、約８mにトラロープを張り、通行の補助とした。

地蔵岳の水場を過ぎてすぐ、古い道標が建っている。「地蔵岳参道」と彫られた石柱が倒れていた。地蔵岳捲道の標識と奥駈道の方向を示す標識を追加し、石柱の場所を変えて立て直した。ここから奥駈道までに、はっきりとした登山道は無く、辛うじて判る踏み跡が数本見られた。各々が適当にコースを取り奥駈道を目指す。

降り口にトラロープ

倒木の切除

１５分ほどで奥駈道に到着。石柱と標識がある小さなピークだった。この小さなピークまでは、古いテープが数カ所にあったが、かなり以前の物のようで、どれもが剥がれかかっていた。捲き道への降り口が判りやすいように、トラロープを５mほど張り、山川さんがピンクのテープを付けながら来た道を引き返す。下りも適当に斜面を下り、先ほど立てた標識が見えて地蔵岳の水場に戻り着いた。

２６番鉄塔に戻る途中、行きに切り残した倒木と、突き出した幹を切除し、２６番鉄塔広場で昼食を摂り、東屋岳班と地蔵岳班の到着を待った。

地蔵岳の捲き道は、道幅が狭く、滑りやすく急な部分が多いので、一般向きとは言い難い状態だった。一応通行はできるが、地蔵岳を越えるクサリ場を通る方が安全性が高いように思う。（記；梶野）

皆さんお疲れ様でした。
「僕が行きます」と手をあげて、発熱者の搬送をしてくださった高橋君に感謝です。
行仙宿に一人残って、便所掃除や道普請をしてくださった生熊さん、ありがとうございます。
行仙宿に前泊して、２日間作業に加わって頂いた山田さんにも感謝申し上げます。
紅一点、宿泊参加いただいた高階美根子さん、お疲れ様でした。

差し入れ
乾さん；コシアブラ、ハリギリ、アメノウオなど大量の
天ぷら材料
畑林秀味君；マグロ・セセリ、カマ、刺身
大江さん；おでん、たくさん
生熊さん；シイラ干物

皆で美味しく頂きました、ありがとうございます！

行動タイム
行仙宿 07：30→07：40 逓信道分岐→09：28 葛川辻→09：40２６番鉄塔→10：24 地蔵岳水場→10：38 奥駈道→11：00 四阿宿 11：15→12：10２６番鉄塔→12：50 葛川辻→14：33 逓信道分岐→14：45 行仙宿